

JAIR Newsletter

日本国際政治学会ニューズレター

No. 85 March 1999

理事長就任にあたって

山本吉宣 (東京大学)

冷戦の終焉以来、私の学問上の関心は、冷戦後の国際政治をいかに捉えるか、ということであった。冷戦崩壊の前後、1980年代末から90年代の初頭にかけて、国際政治がどうなるか何を言っても外れる、という状態であった。それから比べると、いまはかなり落ち着いてきている。とは言え、この十年をみても、多くの変容や、出来事がおき、国際政治を定型的に見ていくのは困難となっている。現在の国際政治を捉えようとするとき、第二次世界大戦後、営々として築かれてきた国際政治の分析枠組みは、ミクロのレベルでも、マクロのレベルでも機能不全を起こしているといえ、既存の概念にかわりさまざまな新しい概念が提出されてきている。たとえば、グローバリゼーション、グローバル・ガバナンス、グローバル・シヴィル・ソサイティなどである。また、それらの概念においては、現実の分析とともに理念とか規範が明確に含まれる場合が多い。加うるに、方法論としても、定型を求めたり、行為主体や行為主体の選好を所与のものとしてみるのではなく、それらがいかに形成され変化していくかを明らかにし、以ていかに国際政治の変容を説明するか、という問題意識にたった方法なり研究が多く見られる。私は、前の期に『国際政治』の独立論文の担当をしていたが、若手の方々が、コンストラクティビズムなど新しい視点から分析を行なおうとしていることを多々みだし、また、『国際政治』の掲載論文全体をみても、さらに、研究大会そのものをみても、新しい潮流を強く感じるのである。しかしながら、新しい概念は、現実をあらわそうとするものとしても、あるいは分析枠組みとしても、必ずしも十全なものではなく、また新しい方法論も実証研究を積み重ねて、その有効性と体系的性を高めていかなければならないように思われる。そして、堅実な歴史研究、地域研究とともに、このような新しい力がどんどん育っていくような学会になればと思っている。

私が、理事長として行なわなければならないと考えているもっとも重要なことは、学会運営の簡素化と国際性

をもとめて昨期毛里和子氏のもとで学会改革検討委員会で検討された諸改革を実行し軌道に乗せることである。すでにニューズレター等でご承知のことと思うが、たとえば、研究大会は年1回(3日間)、(基本的に)コンベンション方式となり、今年から実行される。また、研究大会においては部会・共通論題の報告者にはペーパーの提出が義務付けられる。さらに、参加費の徴収も行なわれる。いわば、外国を含め他の学会と似たような研究大会になる。学会としての研究活動についても、その強化のために、分科会責任者連絡会議、研究ブロックが新設され、分科会の活動や意向が、企画委員会、編集委員会に伝わるような機構改革が行なわれた。さらに、学会また会員の国際的な交信、発信の場として年一回の英文ジャーナルの発行も決まっている。これらすべては学会として初めてのことであり、実務的にも詰めなければならないことも多い。従って、会員全体また関連の諸委員の方々に多大のご迷惑をお掛けすることもあると思う。たとえば、コンベンション方式ということになると、一年以上まえに、場所を決めなければならず、また、いいところがあると思うと、費用的に手が出なかったり、あるいは先約があったりする。なんとなく、基本的な方針はあるがそのもとで、すべて試行錯誤でやっているような感じである。このようななかで、会員諸氏のご理解とご協力は不可欠であり、会員諸氏のご意見を折りに触れてお聞きしつつ、学会改革を軌道に乗せ、その目的を達成していきたいと思っている。

私が、国際政治学会で初めて研究発表をしたのは、確か1975年の秋であった。そのとき、田中直吉理事長は直接私に電話され、私の研究発表のテーマの確認をされた。おおいに恐縮したものである。爾来、四半世紀がたつ。その間、諸先輩のご努力でそれまで以上に学会は発展した。あたらしく理事長に選任され、学会の伝統を守りさらなる発展をはからなければならない責任の重大さをおもい、ここに諸会員のご協力を切に願う次第である。

学会運営組織図

理事会

(事業計画および予算・決算の認定、学会全般に関する会務の執行)

理事 天児慧、有賀貞、五百旗頭真、五十嵐武士、石井修、伊東孝之、猪口孝、猪口邦子、入江昭、宇野重昭、大芝亮、小此木政夫、北岡伸一、木畑洋一、黒柳米司、国分良成、佐藤英夫、下斗米伸夫、鈴木佑司、高橋進(東大)、高柳先男、田中明彦、田中俊郎、波多野澄雄、初瀬龍平、平野健一郎、藤原掃一、松下洋、武者小路公秀、毛里和子、百瀬宏、山影進、山本武彦、山本吉宣、渡邊昭夫(計35名)

監事 大畑篤四郎、木戸蒨、中嶋嶺雄

理事長
山本吉宣

副理事長
猪口孝

運営委員会

(理事長の補佐、学会通常業務の処理)

山本吉宣(主)、猪口孝(副)、伊東孝之、大芝亮、国分良成、佐藤英夫、下斗米伸夫、田中明彦、田中俊郎、松下洋、毛里和子、山影進

企画・研究委員会

(全国的な会員間研究組織の統轄・推進および研究大会の企画)
国分良成(主)、田中明彦(副)
広瀬崇子(副)、大島美穂
我部政明、古城佳子、田中孝彦
研究ブロック幹事

研究ブロック幹事

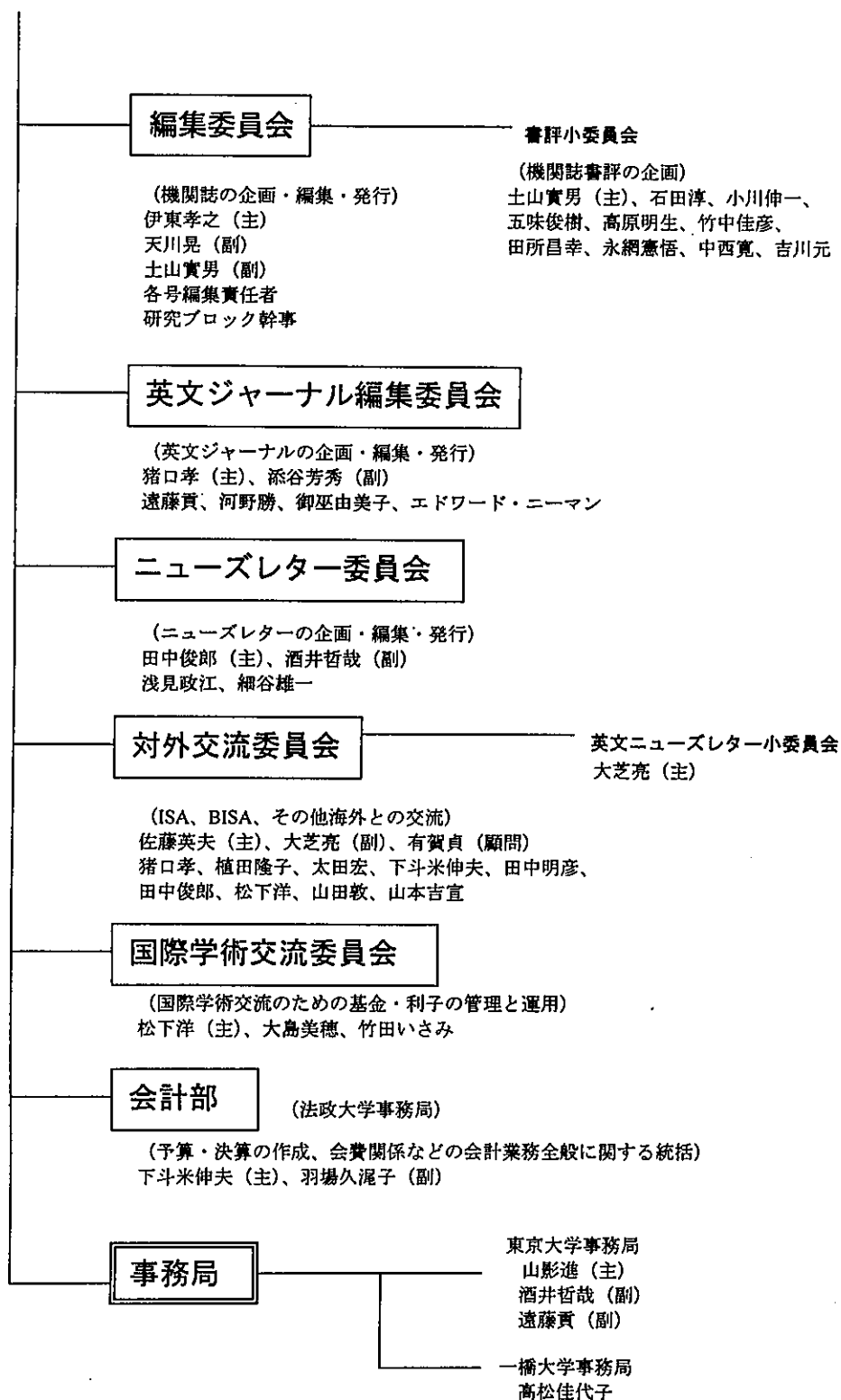
ブロックA (歴史系)	波多野澄雄
ブロックB (地域系)	岩田賢司
ブロックC (理論系)	田中明彦
ブロックD (非国家主体系)	平野健一郎

研究分科会責任者連絡会議

日本外交史(波多野澄雄)、東アジア国際政治史(藤井昇三)
ヨーロッパ国際政治史(亀井紘)、東アジア(浜谷芳秀)
アメリカ政治外交(高松基之)、ロシア・東欧(岩田賢司)
東南アジア(黒柳米司)、中東(小杉泰)、アフリカ(小田英郎)、ラテンアメリカ(松下洋)、政策決定(長尾悟)、理論と方法(田中明彦)、国際統合(辰巳浅嗣)、安全保障(志島學修)、国際政治経済(赤根谷達雄)、平和研究(酒井由美子)、国連研究(横田洋三)、トランスナショナル(梶田孝道)、国際交流(平野健一郎)

地域・院生研究会

関西地域研究会(豊下楯彦)
名古屋国際政治研究会(佐々木雄太)
九州沖縄地域研究会(藪野祐三)
東京地区院生研究会(細谷雄一)



《事務局の業務分担》

【一橋大学事務局の業務】

①入会申込、退会の処理、②発送用宛名シールの依頼、③会員異動（転居など）の把握、④ISA、BISA 関係等事務の処理、⑤会員名簿の編集・刊行・管理、⑥国際学術交流基金関係の窓口など。

〒186-0004 国立市中 2-1

一橋大学磯野研究館内日本国際政治学会

Tel.: 0425-80-8842

担当：高松佳代子（水、木、金 10:30-17:30）

【東京大学事務局の業務】

①理事長職務の補佐、②理事会および運営委員会の庶務、③研究大会開催場所選定準備、④研究大会実行委員会との連絡業務、⑤研究ブロック・研究分科会責任者との連絡業務、⑥研究大会報告者、討論者、司会への依頼状の作成・発送、⑦研究大会内容に関するアンケートの作成・発送・受領・整理、⑧役員改選に関する業務および関係官庁との連絡・届出関連事務処理、⑨助成金申請に関する業務および関係官庁との連絡・届出関連事務処理、⑩日本学術会議に関する業務、⑪機関誌の発送とバックナンバーの管理、⑫運営委員会および理事会の議事記録の作成、⑬機関誌の「学会記事」の作成、⑭ニューズレターの「学会記事」、「事務局だより」の作成など。連絡先は事務局便り参照。

《1999 年度研究大会・企画概要》

21 世紀まで残り 2 年を切った。21 世紀の国際政治はいかなる様相を呈するのであろうか。新世紀を見通した議論がすでに学界や論壇を賑わしている。西暦 2000 年という時の鐘を聞いた瞬間から、世の中はおそらく一挙に 21 世紀世界のありように関心の拍車をかけるに違いない。われわれ国際政治学会がこれに迎合するの必要はないが、社会的使命として、こうした議論の先駆けとなるべき気概と準備は必要である。

しかし、国際政治を鳥瞰する議論は歴史を踏まえたものでなければならない。世紀の移り変わりとともに国際政治が一挙に変わるわけではないからである。歴史哲学の欠如した国際政治学は深みと重みに欠ける。

企画・研究委員会は議論のすえ、今回の研究大会では「20 世紀の国際政治学」と題する共通論題を設置することにした。20 世紀に人類は 2 度にわたる世界大戦を経験し、第 2 次大戦後には冷戦も経験した。この間、国際政治学あるいは国際関係論も、こうした 20 世紀的経験に合わせるように研究を蓄積してきた。21 世紀を目前にしてこれらをどのように総括すべきか。

共通論題ではアメリカ（山本吉宣理事長）、ヨーロッパ（百瀬宏会員）、日本（中西寛会員）の 3 つの地域に分けてこのテーマに取り組む。国際政治学を地域で区分

する意味はどこにあるのか、地域に固有の国際政治学は成立するのか、イシューで分けるべきではないのか、時代で分けるべきではないのか等々、もちろんこうした問いは委員会でも議論された。地域で分ける正当性が必ずしも確固としてあるわけではない。むしろこれを含めて議論の俎上に載せてもらえたと願う。

討論者は猪口孝副理事長、司会は佐藤英夫前理事長、どのような議論が展開されるか、乞うご期待である。

委員会では、研究が細分化しパネルの増加が望まれる中で、共通論題の廃止案についても検討された。しかし研究が細分化すればするほど、そして会員数が増えれば増えるほど共通に討論する場を残すべきだとの意見が多数を占め、共通論題を一つ残すことにした。

この分、部会の重みが増した。部会は全部で 12 個、3 つの時間帯にそれぞれ 4 つづつ配置されている。従来であれば共通論題クラスの部会も数多い。このうち一般会員による企画は 4 つ（太田宏会員、小田英郎会員、杉田米行会員、松村正義会員）で、杉田会員の企画は英語パネルである。若手の登竜門である自由論題は 2 つ用意してある。また今研究大会から、分科会の時間帯（旧来の分科会大会に相当）が 3 ヶ所に設置されており、若手研究者の報告の場は数多く残されている。

論文執筆が義務化されていることから、西暦 2000 年度の企画についてもすでに準備を開始している。会員諸氏の斬新な企画をできるかぎり取り入れるよう、オープンな企画・研究委員会を目指す所存である。

（企画・研究委員会主任 国分良成）

《研究大会における企画・発表についてお願い》

2000 年度研究大会は、2000 年 5 月 19-21 日の間名古屋地区において開催される予定です。この大会の部会・研究分科会において発表をご希望の会員または企画をお持ちの会員は、是非とも企画・研究主任または分科会責任者宛に郵送あるいは FAX にてお早めにご一報ください。その際、企画または発表題目、趣旨、氏名、所属、連絡先住所（Tel/Fax）をお知らせください。もちろん、御希望の皆様全員にお約束できるわけではありませんが、参考とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

部会の場合：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学法学部 国分良成宛（5 月末日迄）

Fax. 03-3798-7480

分科会の場合：以下にご連絡ください。

研究分科会責任者連絡先一覧（1999 年 1 月現在）

◆ブロック A（歴史系）

①日本外交史（波多野澄雄／ブロック A 幹事）

②東アジア国際政治史 (藤井昇三)

③ヨーロッパ国際政治史 (亀井 紘)

④アメリカ政治外交 (高松基之)

◆ブロックB (地域系)

①ロシア・東欧 (岩田賢司/ブロックB幹事)

②東アジア (添谷芳秀)

③東南アジア (黒柳米司)

④中 東 (小杉 泰)

⑤ラテンアメリカ (松下 洋)

⑥アフリカ (小田英郎)

◆ブロックC (理論系)

①理論と方法 (田中明彦/ブロックC幹事)

②国際統合 (長巳浅嗣)

③安全保障 (志鳥學修)

④国際政治経済 (赤根谷達雄)

⑤政策決定 (長尾 悟)

◆ブロックD (非国家主体系)

①国際交流 (平野健一郎/ブロックD幹事)

②トランスナショナル (梶田孝道)

③国連研究 (横田洋三)

④平和研究 (酒井由美子)

◆地域研究会

関西地域研究会 (豊下橋彦)

名古屋国際政治研究会 (佐々木雄太)

九州沖縄地域研究会 (藪野祐三)

◆院生研究会

東京地区院生研究会 (細谷雄一)

oya.ntm

【分科会活動報告】

日本外交史研究分科会

日本外交史研究分科会の研究会は、1998年11月21日、早稲田大学国際会議場の共同研究室で開催された。報告者は河本清子会員(聖心女子大学)、テーマは「河本大作大佐の思想と史料」であった。

報告者によれば、河本大佐は早くから忠君愛国の教育を受け、軍人になってからも馬賊の指導や援段政策にもかかわった。田中義一や森恪とも親しく、国民が血を流して獲得した満蒙における権益をまもるためには武力行使もやむを得ないと考えた。田中はロシアの南下政策を

脅威と受けとめ、これに対抗するためには中国の「大同」思想の影響もあり、対露緩衝地帯としての満州を構想し、そこで日中が大同に生きる道を模索したのではないかとされた。

また、田中は若い時から経済に関心を持ち、のちに太原によれば、資源開発を中心とした山西産業株式会社をおこし、戦争を止めさせようとした。また閩錫山とも意気投合し、会社も閩に返還した。

報告者が御父君からうけた書簡など貴重な史料、写真、文献を披露され、得るところの多い研究会であった。

なお本研究分科会の責任者には、波多野澄雄会員（筑波大学）があたることになった。気鋭の責任者のもとで、一層研究活動が活発となることが期待される。

（大畑篤四郎）

【国際政治・開発系大学院探訪⑤】

広島大学大学院国際協力研究科

本研究科は、アジアを中心とする発展途上国の諸課題の解決に取り組む人材を育成することを目的とする独立大学院として1994年に設置された。以後年次進行により、開発科学専攻と教育文化専攻の2専攻が設置された。現在、61名の専任教員と222名の学生が研究・教育に従事している。98年3月には、待望の8階建て研究科棟が完成した。本年度が完成年次に当たり、年度末には最初の学位を授与する予定である。

本研究科設置に際しての基本的理解は、途上国の直面する諸課題の解決のためには、当該問題に関する専門的知識のみならず、当該地域の経済、社会、文化、教育、技術、自然環境の実態の理解を欠くことができないというものである。本研究科は、このような認識に立脚して、特定学問領域における専門知識に加えて、対象地域の経済、社会、政治、文化、自然などの地域特性をより深く理解し、総合的判断能力をもつ人材を養成することを目的としている。この目的のために、社会科学のみならず、工学、生物学、教育、人文諸科学など多様な学問分野による専門性と総合性を兼ね備えた教育・研究を目指している。特に、自然科学分野を含めた文系・理系融合型の教育・研究体制を構築することに意を用いている。従って、独立大学院とはいえ、他研究科、他学部との全学的協力・支援が不可欠である。

また、経済、政治、工学、生物、教育、文化など広い範囲に渡り専門以外の分野の基礎知識を身につけるための科目を必須科目とし、他方でフィールドワーク、インターンシップなど実体験の機会を提供しているのも同じ趣旨からである。

実りある国際協力のためには途上国の将来の担い手と共に学ぶ場が必要であるとの趣旨から、多くの留学生、特にアジアからの留学生を積極的に受け入れているのも本研究科の特色のひとつである。1998年現在、前期課

程後期課程合わせて222名の在籍者のうち、4割弱の80名が外国人留学生である。留学生のためには日本語、日本経済、日本文化、日本語文献講読などの科目も提供している。国際的な場で活躍し、国際協力の実を挙げるためコミュニケーション能力を重視し、そのため、多くの授業を英語、あるいは何らかの形で日英両語併用で行っているのも同様の趣旨からである。

そのほか、学位取得年限の短縮、研究科公式行事としての修士論文報告会、外国人研究者の英語によるセミナーの定期開催、後期課程進学のための3科目の筆記試験など、まだ試行錯誤的部分もなくはないが、教育効果を高めるための多くの試みを行っている。

設置後5年近くを閲して幾つかの問題が緊急の課題として現れてきた。国際協力の現場への就職の機会を拡充すること、日本人、外国人混在の場合英語あるいは日英併用の授業の効果を上げること、文理融合の効果を十分に挙げるなど、全学的協力体制を円滑に維持していくことなどが研究科の直面する課題である。なお、スタッフ、カリキュラム等研究科の詳細については、下記のホームページを参照されたい。

URL <http://www/idec.hiroshima-u.ac.jp/~info/index-j.html>

（広島大学国際協力研究科 松尾 雅嗣）

【シンポジウムのご案内】

大学院における政治学教育——21世紀に向けて

主催：日本学術会議政治学研究連絡委員会

協力：成蹊大学

日時：1999年6月12日（土）

シンポジウム 13:00-17:00

交流会 17:30-19:30

場所：シンポジウム 成蹊大学 4号館ホール

交流会 10号館12階

基調講演 三谷太郎氏（成蹊大学）

パネリスト 石川 捷治氏（九州大学）

西崎 文子氏（成蹊大学）

平野健一郎氏（早稲田大学）

村松 岐夫氏（京都大学）

山田 辰雄氏（慶應義塾大学）

司会 初瀬 龍平氏（神戸大学）

交流会参加費：2000円。積極的にご参加ください。

問い合わせ先：日本学術会議事務局 03-3403-6291

（代）成蹊大学法学部亀嶋研究室 0422-37-3623

【安倍フェロシップ奨学研究者募集】

国際交流基金日米センター及び米国社会科学研究所評議会（SSRC）は、安倍フェロシップ奨学研究者の1999年度公募を4月1日より開始します。

安倍フェロシップは個人の調査研究プロジェクトに対する奨学金制度です。その目的は、社会科学と人文科

学分野における高度な政策指向型研究を促進し、日米の研究者間の新しい協働関係とネットワークを形成すること、また、これら研究者から比較研究あるいは国境を越える視点に立った研究への取り組みを引き出していくことです。学者、研究者、また学界以外の各分野の専門家からの申請を歓迎します。

申請資格は日米いずれかに研究の拠点をもち、博士号ないしは専門分野での同等の経験を有していることです。募集人員は15~20名。奨学金支給額は定額方式ではなく申請された研究プロジェクトによって個々に決定されますが、一般に研究費、渡航費、滞在費、および給与と相当分が支給されます。支給期間は最長1年です。

応募に際しては、英文で所定の申請用紙の他に、研究計画書(10ページ相当)を提出していただきます。締め切りは9月1日です。なお、募集要項、申請用紙の請求及びお問い合わせは、下記までご連絡下さい。

SSRC 安倍フェローシップ・プログラム東京事務所
〒107 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル20階
国際交流基金日米センター内

Tel: (03) 5562-3506 Fax: (03) 5562-3504

Internet <<http://www.ssrc.org/abefell.htm>>

《秋野豊基金へのご協力を》

前号の追悼特集のように秋野豊会員が国連タジキスタン監視団の政府派遣政務官として活動中に凶弾に倒れました。故人が読売国際協力賞を授賞されたのを機に、副賞500万円を核とする秋野豊基金が設立され、広く皆様から浄財を募っています(詳細は同封の呼びかけ)。

秋野豊基金 郵便振替口座 00140-1-99509

三和銀行東京営業部 普通預金 7873898

《事務局便り》

○東京大学事務局が、前号ニューズレターでお知らせしたように、発足しました。改めてご紹介いたします。

構成は山影進主任、酒井哲哉副主任(ニューズレター担当)、遠藤貢副主任(研究大会担当)です。

事務局といっても、理事長の個人研究室に小さな机がひとつと留守電機能付きファックス(しかも電話番号が理事長の電話と共通)があるだけです。当面のお手伝いを松本八重子会員にお願いして、スタート・アップの最中です。本年4月から学会の組織と運営方式が抜本的に新しくなり、従来と比べると事務局の業務は格段に軽くなるはずですが、移行期にあたって、まごつく毎日です。全員がこのような仕事には不慣れ(不得意?)ですので、会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることがあるかも知れませんが、よろしく願います。

連絡先は次のとおりです。

〒153-8902 目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 山本吉宣研究室気付 日本国際政治学会東大事務局

原則として月曜と木曜に「開室」しておりますので、電話でのご連絡は、なるべく月曜か木曜にお願いいたします。

なお、一橋大学事務局は従来どおりです。

○新旧運営委員会合同会合と新運営委員会の第1回会合が、1998年12月5日(土)、神田学士会館で開催され、次のような構成で今期(2000年秋まで)の運営委員会が発足しました。

山本吉宣理事長、猪口孝副理事長兼英文編集委員会主任、国分良成企画・研究委員会主任、田中明彦同副主任、伊東孝之編集委員会主任、佐藤英夫対外交渉委員会主任、大芝亮同副主任、田中俊郎ニューズレター委員会主任、松下洋国際学術交流委員会主任、下斗米伸夫会計部主任、毛里和子無任所顧問、山影進事務局主任の12名です。

○第1回運営委員会の審議内容のうち、各委員会からお知らせすべきものを除くと、主なものは次のとおりです。

1. 学術会議代表派遣の会議(および派遣候補者)をISA(佐藤研連委員)、BISA(平野研連委員)で申請しました。
2. 英文ジャーナルの出版計画については、出版社などとの交渉がまだ続いています。
3. 科研費(成果公開促進)、『国際政治』刊行助成)を申請しました。
4. 入会申請のあった11名について審査し、全員の入会を仮承認しました。正式決定は次回理事会です。
5. 99年5月14-16日、上総アカデミア・パークで開催予定の大会のプログラムを基本的に承認し、企画・研究委員会で具体化作業に入ることが決まりました。
6. 日本学術会議の「第6回アジア学術会議」に対する協力依頼に対し、従来どおり応諾し、1口(1万円)寄付することにしました。

○第2回運営委員会が1999年2月13日(土)、神田学士会館で開催されました。審議内容のうち、各委員会からお知らせすべきものを除くと、主なものは次のとおりです。

1. 今回の運営委員会より大会実行委員長(現在、波多野澄夫会員)に出席してもらうことになりました。これは大会の企画と実施との円滑な連携を図るための措置です。
2. 会則申し合わせに従って、8名の会員を次回理事会で名誉理事に推薦することに決定しました。また、名誉会員と名誉理事の選出に関わる申し合わせを見直すことを理事会に諮ることが決まりました。
3. 2年ごとに作成している学会名簿について、今回(1999年発行予定)から学会事務センターに作成を委託する方向で検討することになりました。

4. 入会申請のあった6名について審査し、全員の入会を仮承認しました。正式決定は次回理事会です。

5. 研究大会が年1回になったこと、分科会を強化する方針になったことと連動して、研究大会時以外に開催する各種会議へ遠方から出席する必要のある者に対して旅費を支給することを決めました。該当する会合と支給対象者は次のとおりです。・運営委員会・運営委員・大会実行委員長、・理事会-理事、・企画委員会と編集委員会に出席を求められたブロック責任者。ただし宿泊費については請求のあったときのみ支給します。また会議開催場所は旅費支給額が最も少なくなるように決めることになっております。

6. 来年度予算について、名簿作成費用・研究大会への補助などを例年より増額して理事会にかけることになりました。

7. 本年5月開催予定の研究大会の参加費を2千円にすることが決まりました。ただし院生会員からは徴収しません。

8. 英文ジャーナルを2000年度ないし2001年度から年1回の発行(毎回200万円以上必要)を当面の間続けること、会員には無料で配付することが決まりました。また、英文編集委員会を英文ジャーナル編集委員会と改称することが決まりました。なお、出版方法については未定です。

9. 2000年度研究大会は、2000年5月19日(金)-21日(日)、名古屋地区で開催する方向で検討することが決まりました。

《「国際政治」への投稿について》

『国際政治』では、各号に特集テーマとは関係のない独立論文を1~2本掲載しております。会員各位からの積極的な投稿をお待ちしております。執筆にあたっては『国際政治』第108号の「編集および執筆要領」にしたがってください。ご投稿いただいた原稿は2名の匿名のレフェリーの判定により、掲載の可否を決めさせていただきます。投稿ご希望の方は、(1)伊東孝之主任にオリジナル1部、(2)天川晃副主任に3部をご送付下さい。ただし、同一会員が2年以内に1回以上の寄稿は原則としてできません。(編集委員会)

《「会員の声」の募集》

ニューズレター委員会では「会員の声」欄(コラム)の原稿を募集しております。研究大会の感想、学会への提言、研究プロジェクトやシンポジウムの公募や呼びか

け等、400-600字ぐらいで、お願いします。

編集の都合上、フロッピー(テキストファイル)もしくはE-メールでいただくと幸いです。

《編集後記》

山本吉宣新理事長の下でニューズレター委員会のメンバーも交替しました。この2年間ご尽力いただいた猪口邦子主任、波多野澄雄副主任をはじめとする旧委員会のメンバーの皆様には厚くお礼申し上げます。

新委員会では、事務局副主任の酒井哲哉会員(東京大学)に副主任を兼務していただき、さらに浅見政江会員(秀明大学)、細谷雄一会員(慶應義塾大学大学院)にご助力いただくことになりました。

私にとってニューズレター委員会は2回目のご奉公となります。今から22年も前、当時の細谷千博理事長の下でニューズレターを発刊することになり、松本三郎主任の下で創刊号から9号まで編集をお手伝いをさせていただきました。

創刊の目的のひとつは、会員相互のコミュニケーションの場を提供することでした。しかし、前委員会が発足時に指摘されたように、「歴代主任の工夫にもかかわらず、学会の規模が大きくなるにつれ、事務局や○○委員会による一方通行的な記事の比重が多くなって行く」傾向にあります。しかも、今年から研究大会が年1回になり、会員間の相互交流の機会が減少する危険性もあります。そこで、私たちも、創刊の原点に戻って、会員皆様の声を反映するような紙面づくりをこころがけたいと思います。

また、これまでは研究大会の概要が年間4回発行のニューズレターのうち2号の紙面の多くを占めてきましたが、研究大会が年1回になったことによって、秋、冬号には研究大会以外の記事を掲載することが可能になります。しかし逆に定期の記事がなくなり、編集人としては別の記事を集めなければなりませんので、皆様の積極的なご意見とご投稿をいただければ幸いです。

どうぞ会員皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。(主任・田中俊郎)

「日本国際政治学会ニューズレターNo. 85」

(1999年3月15日発行)

発行人 山本 吉宣

編集人 田中 俊郎 〒108-8345 港区三田2-15-45

慶應義塾大学法学部・田中俊郎研究室

印刷所 (株)理想社 TEL. 03-3260-6177